

ショーシャンクの空に (The Shawshank Redemption)

観賞日 2021年3月22日

【概要】

制作 1994年 アメリカ 上映時間 143分
原作 スティーヴン・キング 『刑務所のリタ・ヘイワース』
監督・脚本 フランク・ダラボン
音楽 トーマス・ニューマン
撮影 ロジャー・ディーキンス
出演 ティム・ロビンス (アンディ)、モーガン・フリーマン (レッド)
ボブ・ガントン (ノートン刑務所長)、克蘭シー・ブラウン (ハドリー主任刑務官)
ジェイムズ・ホイットモア (ブルックス)



【あらすじ】

戦後間もない1947年アメリカ、メイン州。不貞を働いた妻と相手の男を殺害したとして終身刑の宣告を受けたアンディ。銀行の若き副頭取であったアンディが入所したショーシャンク刑務所はノートン所長と腹心の鬼主任ハドリーが支配する無法地帯であった。悪夢のような2年間をすごしたある日、アンディはハドリーに相続税対策の指南をし、信頼を得るようになる。さらに、ノートン所長の眼鏡にもかない図書係になったアンディは州予算を獲得し所内の文化活動を推進する。囚人の労働力を使った青空奉仕活動を始めたノートン所長。会計係となったアンディはかつてのキャリアを活かし所長に裏金の蓄財の仕方を教える。アンディが入所して18年が経過したころ、トミーという青年が入所してくる。トミーから聞いた衝撃的な話。自らの冤罪を晴らすため所長にその話をする。裏金の存在が外部に漏れることを恐れた所長はトミーを殺害させてしまう。所長の対応に失望したアンディは遂に重大な決意をする。親友のレッドを不安にさせたアンディの決意とは。

痛快極まりないラスト20分。湧き上げる感動。

【解説】

■ポイント

●原作：スティーヴン・キング、監督：フランク・ダラボン

映画化されたキング作品は数多くあり、そのほとんどは興行的にも成功。本作の原作のタイトルは『刑務所のリタ・ヘイワース』でリタ・ヘイワースは1940年代のセックス・シンボルとなったハリウッド女優。リタのポスターは、その後、マリリン・モンロー、ラクエル・ウェルチに変わっていくが、ポスターが本作の重要な役割を果たす。因みに、このコンビによる映画は他に「グリーン・マイル」(1999年)、「ミスト」(2007年)等。

■見どころ

●生きるうえで力になる名セリフの数々

「心の豊かさを失ってはいけない。人間の心は石ではない。誰の心の中にも希望がある」(アンディが囚人仲間に語った言葉)

「選択肢は二つだけ。必死に生きるか、必死に死ぬかだ」(アンディがレッドに語った決意)

「希望は素晴らしい。何事にもかえがたい。希望は永遠の命だ」(アンディがレッドに託した手紙。レッドが生きる決意をした言葉)

●ラスト・シーン

感動的なラスト・シーン。ハリウッド映画らしいハッピー・エンド。